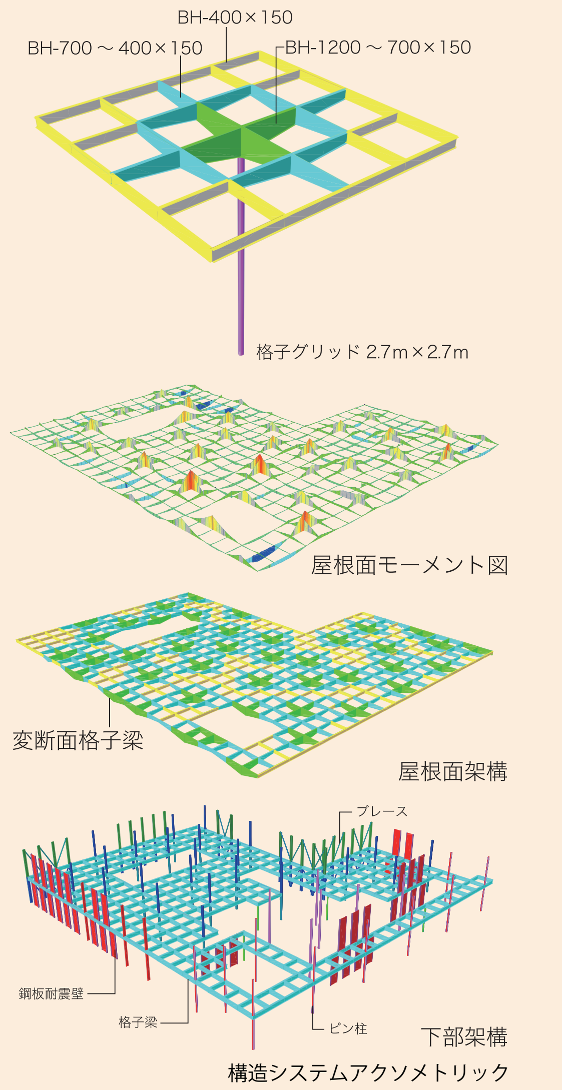
福岡女子大学　学術情報センター

地域にも開放される森のような図書館・もてなしの心でやさしく迎え入れる木ルーバー天井

構造の力の流れを視覚化する木ルーバー天井

ランダムに配置された柱、格子状に木の枝のように広がる 1200・700・400 の成を持つ連続した梁の勾配に沿うように w30×h75 の木ルーバーを設置している。構造フレームを適度に透かして見せることで力の流れを幾何学の造形としてシステム化し、構造と一体となったデザインとして昇華させた。2700 グリッドの梁勾配、木ルーバーの構成パターンの組み合わせで出来る 3 次元曲面を連続させてゆくことで、やわらかで動きのある空間をつくっている。

鉄骨建て方の様子

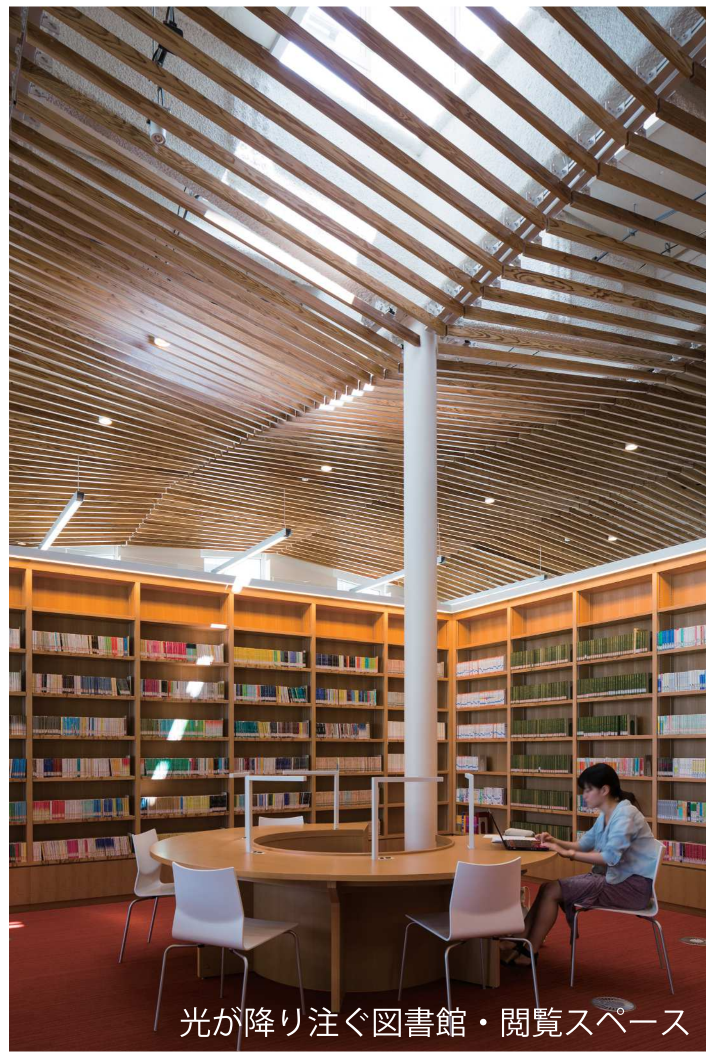


構造システムアクソメトリック

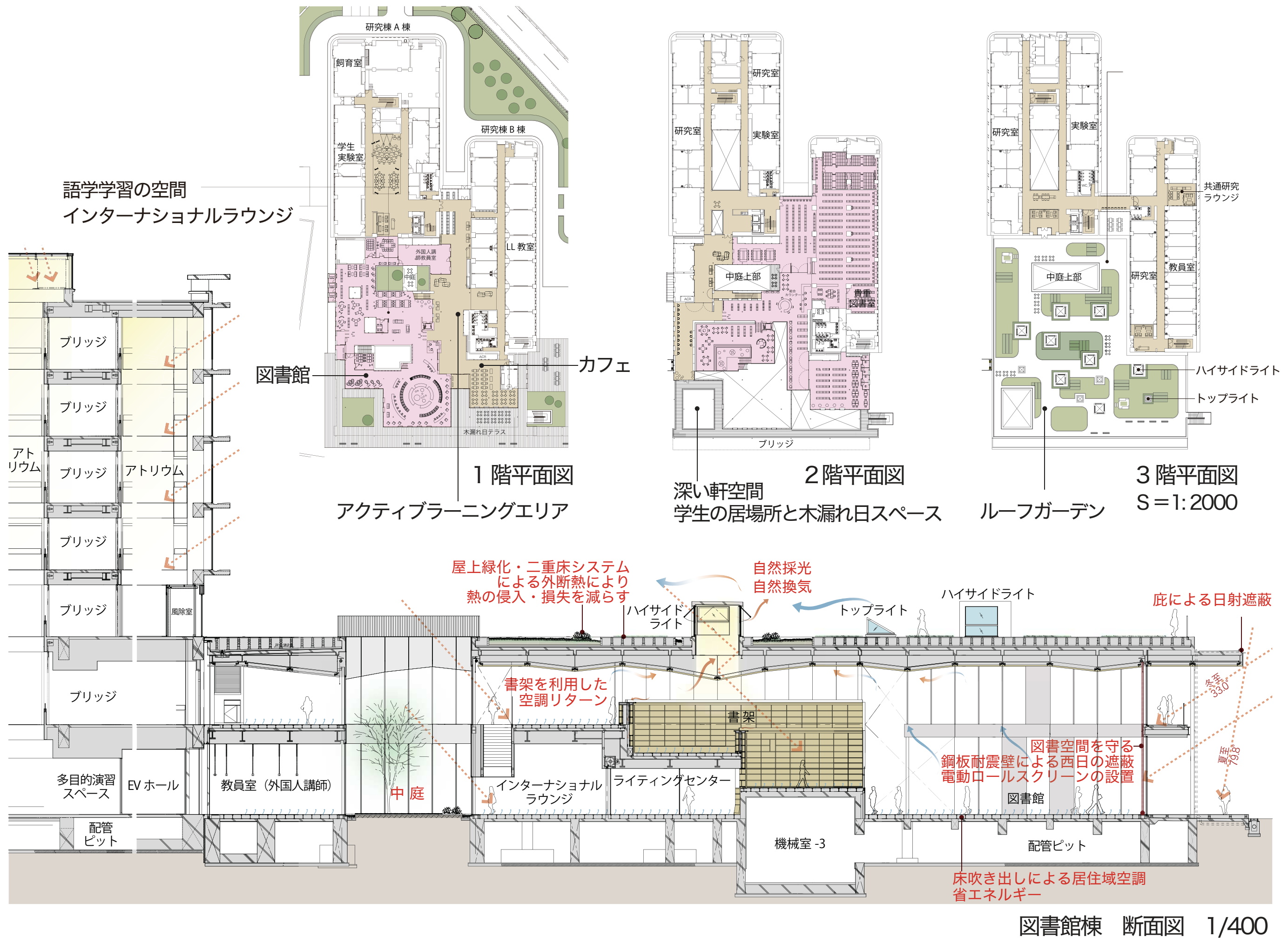
森の中の図書館

森の中にいるような木漏れ日に包まれた空間、内外の隔たりがなく、自然に人々が集まるような空間・図書館を目指した。平面計画は語学学習の空間と図書館を一体的に考え、お互いを補完しあう構成とした。1 階の学習空間と 2 階が主体の図書館が階段状に有機的につながるとともに、ガラスで間仕切られた静かな場所から学生が自由に会話できる賑やかな場所まで、様々な環境の場所を設えている。この一体空間の大屋根を、空間をやわらかく包み込みながらも存在感を示す構成とした。県産材の杉ルーバーで覆われた凹凸のある天井面を通して、トップライトやハイサイドライトからの光が漏れ出ることで、木漏れ日の落ちる森の中にいるような空間をつくりだしている。大屋根の下の開放的な空間に各棟を結ぶ動線や中庭を挿入し、学生が自由活発に動き、互いの視線が通ることで自然に交流が生まれることを意図した。

この波打つような天井形態は大屋根（テラス）を支える構造を表現している。構造上合理的なグリッド梁による大屋根は鉛直荷重を負担する数多くの細い柱で支えられている。柱は平面計画によって比較的自由な位置に配置され、その柱の位置に応じた荷重分布が梁の形状となり、そのまま天井の形態となって現れる。空調は全面床吹出しの居住域空調を採用している。合理性を持ちながらやわらかな表情をもち、コミュニティを誘発する空間が、多様な価値観を育む学習の場となることを望んでいる。



光が降り注ぐ図書館・閲覧スペース



図書館棟　断面図　1/400

学習空間と図書館が有機的につながる